

サポートツール実証データ

実証研究実施者	全国LD親の会・実証研究、2007年度
区分 1	運動と姿勢
区分 2	姿勢
領域	姿勢保持
困難	椅子にもたれかかり、ずり落ちる
サポートツール	座位保持クッション
対象児	小4
試用期間	2ヶ月間 1回/週
使用場所	通級指導教室
設定状況	学校で使用しているJIS規格サイズの椅子に適用 どこでも斜面台・ワンタッチ足台を併用
使用状況 <授業の構成>	通級指導教室にて週1時間の学習活動時に、座位保持クッションと足置き台をセットにして使用した。 活動内容は、生徒2人のグループ指導で行い、前半30分は漢字練習や計算・本読み・作文などの学習課題、後半30分は、話し合い活動とゲームが大体の流れであった。
<子どもの様子>	本児は2年生9月から通級開始。 左利きだが、食事・書字は右手を使用。姿勢保持が悪く、特に疲れている時や暑い時は姿勢が崩れ、イスに座ることも困難であった。3年生から、通級指導教室と通常の学級で円座クッションを使用。授業への参加に改善がみられるようになった。しかし、姿勢保持についてはその時の体調で左右されやすかった。 4年生5月、作業療法士が通級指導教室を訪問し、座位保持能力を観察。円座クッションは、子どもの動きにより位置がずれやすく、形も変形しやすいため、効果が持続しにくかった。そこで新規に座位保持クッションを開発し試行した結果、クッションの使用前後で漢字の書き取り、本読みの座位保持姿勢、座圧分布と重心移動が変化し、体の左への傾きや背中中の曲がりが増した。
留意事項	座位保持クッションの使用により座面が高くなるので、クッションを置いてから、椅子に深く座って子どもの膝を90度曲げ、足底が足台に接地する椅子の高さが望ましい。ワンタッチ足台を同時に利用すると高さ調節がしやすい。

<p>評価</p>	<p>ビデオ撮影と座圧測定機器を用いて使用前後を評価した。字を書くときには、座圧は左に大きく偏り、体も左に崩れやすく、プリントも左にずれやすかった。本読みでは、座圧と重心は後方に偏り、本を両手で持ち上げるのが難しく、机の上に置いたままか、または椅子の背もたれによりかかり本を引き寄せていた。座位保持クッションと足台を使用し、同じ課題を実施して比較したところ、字を書くときは、座圧が左右に分布し、姿勢の左への崩れは軽減し、体の立ち直りがスムーズで、プリントもずれなくなった。本読みでも、背もたれへの寄りかかりや重心の後方への偏りが少なくなった。</p>
<p>サポートツールの改善点</p>	<p>座圧を軽減するだけでなく、課題に集中していても、無意識に骨盤や体の位置を調整できる感覚情報が座面から感じられるよう素材と形状を工夫した。長時間使用したり、家庭で使用したりすることも考慮し、洗濯できるカバーをつけた。成長度合いによって臀部や骨盤の大きさに応じて調整できるよう座面の形状を可変式にした。</p>

サポートツールの概要(写真等)

漢字プリント課題【クッション・足台とも無し】



本読み課題【クッション・足台とも無し】



漢字プリント課題【クッション・足台とも有り】



本読み課題【クッション・足台とも有り】

